

水 林 農
 時代を開く
 次代につなぐ

〈75〉

曾谷さおりさん(46)徳島市



県産食材の卸売りや地産地消の飲食店を手掛ける会社「モンテクルー」(徳島市)。ディレクター(事業責任者)として農業の現場に足を運び、生産者と、首都圏などの飲食店や販売店をつないでいる。

顧客となる生産者は約250個人・法人。取り扱っている品目は加工品も含めて3千種類に上る。「野菜の旬の時期はもちろん、収穫の始めから終わりまで、できるだけ安定した価格で販売できるように心掛けています」

形がそろっていない規格外の野菜は、見た目を除いて品質は良いことから飲食店向けに供給する。熟して黄色くなったスタチはマイ(食用花)など珍しい産品の活用法もPR。農産物の販路やパッケージデザイン

食材の価値向上に尽力

「モンテクルー」ディレクター

けた提案もしている。

京都市生まれ。幼少の頃、小松島市出身の母親のUターンに伴い同市に移り住んだ。航空関係の仕事を目指して兵庫県の大学の英米文学科へ進んだものの、1995年の阪神大震災で大学は休校。その間、針金アトなど手作り雑貨を関西のフリーマーケットに出店しているうちに、自分で店をもちたくなった。大学を中退し、雑貨販売店でアルバイトをしながら、2002年に徳島市に手作り雑貨を販売するカフェをオープンさせた。

フリーマーケットや雑貨販売の経験を生かし、10年から徳島市の新町川ボードウォークでスタートした欧風産直市「とくしまマルシェ」の事務局スタッフとして、通販サイトの制作をはじめ農業や加工品の出店者の発掘・支援に携わった。そこで生産者から「こだわりの農産物を作っても販路がない」「少量の野菜の生産だと売りが相手にしてくれない」といった悩みを聞くようになった。

「生産者の課題を解決できないか」。マルシェを通じて付き合いがあった、モンテクルーの前身会社オーコーポレーションに、県産食材の卸売りなどを行う企画を持ち込んで入社した。後に社長(46)と結婚し、徳島駅近くに県産食材にこだわる「消費者の求める農産物を作る」とともに、生産者が積極的に情報発信し、消費者に農産物の関心を高める。その仲立ちをする

「その仲立ちをする」と曾谷さん。モンテクルーは20年から、農業の活性化につながることを信じている」と話した。(徳島市)の経営に資本参画した。(河野大樹)